

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 東成区

学 校 名 北中道小学校

学校長名 剣持 明広

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・北中道小学校では、第6学年 36名

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科においては大阪市平均と同一で全国平均を1.7ポイント下回った。算数科においては全国平均を1.8ポイントも上回った。また、いずれにおいても平均無回答率は、全国平均を下回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

3つの領域のうち、「A話すこと・聞くこと」については全国平均ポイントから1.3ポイントという僅差に迫れた。また、「言葉の特徴」の領域については全国平均より2.3ポイント上回ることができた。「B書くこと」、「C読むこと」のポイントが全国平均よりも低い現状については本校としても認識しており、令和2年度より研究教科を国語科とし、研究テーマを「思いや考えを伝え、学びあう児童の育成」として据え、文学的教材文に絞って授業研究を進めている。また、大阪市の学力向上推進校に指定され、学力向上推進指導員による授業改善に向けた実践的指導を継続して受けているところである。これらの力は短時間でつくものではなく構築していく必要があるため、今後も継続した取り組みを行う。

〔算数〕

全体として大阪市平均、全国平均を上回っている。調査対象学年は3年生の時より習熟度別少人数指導等を実施してきており、基礎基本の学習の定着ができていることが、「数と計算」、「データの活用」領域での結果に反映したと考えられる。今後も、他学年においても継続して基礎基本の学習の定着を図っていく。

質問紙調査より

昨今のコロナ禍による教育活動の中止や延期などの制限が続いた中でも、「自分には良いところがありますか」という質問に対して肯定的な回答が、全国平均では76.9%大阪市平均では73%に対し、本校では91.2%だった。また、「学校に行くのは楽しいですか」に対する肯定的な回答については、全国平均が83.4%、大阪市平均が80.1%に対し、本校児童の数値は94.1%だったことをうけ、思うようにならない状況下においても、本校の児童は自分を大切に思い健やかに育っていると推察できる。また、「今住んでいる地域の行事に参加している」という質問に対して肯定的な回答が73.5%もあり、地域に関わりを持ち大切にしようとする心が読み取れた。

今後の取組(アクションプラン)

- ・学力につながる基盤として、子ども達が日々の学習活動にやりがいを感じ学校生活を楽しめるような学校経営を重視する。
- ・今後も継続して子ども達が自分の考えを持ちそれを表現できる場の設定を取り入れた学習活動や学校行事を計画する。
- ・教員の人間性・資質の向上となるような研修を行い、子ども達に還元していけるようにする。
- ・学校協議会、学校ホームページを充実させ、教育成果や子どもの様子を地域や保護者に発信し、共有できるようにする。